

## 評価結果概要表

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870300377
法人名	社会福祉法人正和会
事業所名	グループホーム のぞみ ささえ
所在地	宇和島市保田甲1932-2
自己評価作成日	平成25年12月13日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年1月9日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

立地条件を活用させ、利用者、家族、他事業所、地域の人たちとの交流の場になれたらと思っている。今年は春、秋 に他グループホーム、地域の人たちを迎えて交流の運動会を開催し利用者さんに喜んでいただき、来年も皆で元気に会う約束が出来た。今後もしも継続していきたい。  
又、お月見をかねた家族会も、運営推進会議の皆さんも参加して下さって、にぎやかに開催でき、利用者さんも家族と一緒に芋炊き、焼肉をたくさん召し上がっていました。日常には、外に出て天気の良い日は芝生広場に出てお茶を楽しんでいる。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

トイレで排泄することを強く希望される利用者が多くおられ、事業所では、排泄の自立に向けて力を入れて支援されている。体調が優れない時でもトイレでの排泄を希望される場合は、応じておられる。又、事業所では、歩くことにも力を入れておられ、車いすをできるだけ使用せず、手引やシルバーカーを押して移動する方も複数おられ、トイレを使用しやすいようにトイレ入り口は引き戸で、中の個室トイレの戸はカーテンにされていた。  
状態が優れず、職員の目が離せない状態にある利用者は、居間にベッドを移動して休んでもらっており、他利用者が「わるいかな」「たべなさいよ」等言葉をかけてくださったり、又、台所からの音やにおい、さらに人の気配や声等の中で過ごすことで食欲が出て、状態が改善されたようなこともある。  
職員は、看取り支援を経験され、改めて口から食べることの大切さを感じておられた。かかりつけ医や法人、ご家族とも「好みに食べさせてあげたい」という方針が一致しており、食欲が低下した時には、利用者の状態に応じて、お好きなものを食べてもらえるよう支援されて、状態が改善されたような方も複数おられる。

### ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 社会福祉法人正和会

(ユニット名) のぞみ

記入者(管理者)

氏名 舟田 清子

評価完了日

平成25年12月13日

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 事業所の理念を皆で共有し、ゆっくりと利用者さんと関わっている。利用者さんに出来ることは一緒にすることで、利用者さんの笑顔が引き出せている。食後もゆっくりとすることで、利用者さんにも落ち着いてもらえるようになり会話の時間も多かった。	
			(外部評価) ユニットの玄関には、法人理念や事業所の「ゆったり 一緒に 楽しく」という理念と、目標を掲示されている。事業所は、敷地内の法人施設やご家族、地域の方、市内の他グループホーム等と協力し合って利用者が楽しめる行事を企画する等、理念の実践に取り組まれている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 地域のお祭りに出かけていき、地域の方より声をかけてもらってうれしそうに話されている。餅ひろいには、地域の人より持ってきてもらって、うれしそうに受け取っていた。又他グループホームとの交流運動会には地域のお年寄りにも参加してもらって、楽しく過ごすことが出来た。利用者が坂道を下っていると、見かけた人が連絡をくれるようになった。	
			(外部評価) 2年前から春と秋に法人の広場で交流運動会を開催されており、ユニットごと、又、他ホーム・地域の高齢者でチームを作り、競技を楽しみながら交流されている。地域の方達は、職員が車で送迎をされた。交流を通じて地域の方達が利用者の顔を覚えてくださり、利用者がひとりで行かされた時には、見かけた方が連絡をくださったこともあった。毎年、法人施設の職員や利用者で宇和島おどりに参加されており、事業所の方達は、毎年同じ場所で踊りを見学をされている。退居された利用者のご家族等も毎年、声をかけてくださり、懐かしい方にお会いできる機会にもなっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 地域の人から気軽に、栄養相談、介護保険の相談をされるようになった。認知症サポーター研修にも外部に向けて(小学生、中学生)出かけていくことが出来た。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営会議では、地域のイベントの情報等得ることが出来る。又いろいろと利用者向けの良い場所があると教えてもらったり、情報交換している。他グループホームと交流することも出来、利用者さんの楽しい意見も聞くことが出来た。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>会議には、ご家族の代表者や地域の代表者、他グループホームの方が参加されており、事業所の「のぞみユニット」で開催されている。会議は、管理者から活動や利用者の状況について報告を行い、意見交換されており、事業所での食事や水分補給の工夫等について説明されたり、参加者からの認知症についての質問に答えたりされている。玄関に、会議議事録を閲覧できるように置いておられるが、今後は、事業所便りとともに、ご家族へ送付したいと考えておられた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>行政の開催する研修、認知症の講演等は進んで参加し、必要なときは相談できる関係を作っている。良い情報もいただけるので助かっている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>地域包括支援センター主催の認知症サポーター講座時には、管理者が事業所での看取り支援の事例について発表をされ、利用者が亡くなった後もご家族とのおつきあいが続いていること等も伝えられた。以前、運営推進会議時に、認知症サポーター講座を行われたことを機に近くなり、受講者の方4名と今月は、市で行われる認知症の講演会を聞きに行く予定となっている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>「拘束は一切しない」ということは契約時に家族に伝え、職員全員で取り組んでいる。自由に出かけて危険なときは職員と一緒に出かけに行く。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>玄関は施錠せず、夏場は玄関先の風通しの良い涼しい場所で音楽をかけて歌を歌ったりお茶を楽しんだりされている。居間からは、そのまま庭に出られるようになっており、又、スロープが付いていて、冬場は併設老健の壁際の風の当たらない陽だまりで、日向ぼっこを楽しまれている。ベッドから降り方が分からなくなり、危ないような利用者には、床にマットレスを敷いて布団を敷き、休んでもらえるように支援されていた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  施設内での研修も徹底しており、職員も理解している。今まで問題はなかった。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  施設内で研修があり勉強している。実際に権利擁護を利用されている方も居られる。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  入所時は契約書に基づき説明して、納得の上入居してもらっている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  施設玄関には「ご意見箱」が設置されており自由に意見を言ってもらっている。運営推進会議にも出席してもらい、意見を聞く機会を設けている。又面会時、電話等で遠慮なく要望等を聞くようにしている。  (外部評価)  前回の外部評価実施後、目標達成計画に「家族会の開催」を挙げて取り組みをすすめられ、年1回、お月見会時に家族会を開催されている。いも炊きを作り、お酒等も用意して、親睦をさらに深めながら、言いやすい雰囲気作りに取り組まれ、「親の顔を見たら分かります」と日頃のケアへの感謝の言葉等を職員に話して下さったご家族はもあつた。又、「積極的に歩かせてほしい」等の要望も聞けたようだ。玄関には、来訪者に記入いただけるよう、事業所についての感想を聞くアンケートを用意されている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			毎日のミーティング、月一回全体会議を開催し、自由に意見を言って、事業所の改善に努めている	
			(外部評価)	
			職員手作りの牛鬼のタペストリーが玄関等に飾られていた。法人の部長が毎昼食時に来られて、利用者と一緒に食事し、ゆっくり過ごされており、相談もでき、又、気付いたことを話してくれている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			職員が意欲、やりがいを感じられるように、処遇改善等に努めている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			事業所内外での勉強会、研修等に進んで参加できるようにしている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			グループホーム協会での研修、相互研修等に参加して勉強、交流をしたり、他ホームの職員利用者さんとの運動会を開催し、交流を深めると共に、サービスの質の向上を目指している。	
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			アセスメントをしっかりとて、本人さんの思いを知ることが必要と考え、本人さんの意見を傾聴している。そして本人さんに安心してもらえるように勤める。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族さんの気持ちに寄り添いながら、困っていることへの解決に努める。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初回面接時等の聞き取りの中で、必要であれば他施設の空情報等を含めて話し合っている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は、利用者さんを年長者として敬い、意見を聞いたり教えてもらいながら、職員も成長させてもらっている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族さんとは連携を密にし、情報を共有しながら本人さんの介護に当たっている。必要時は家族さんの協力も得られる。又本人さんの暮らしぶりを心配されている家族さんに対し、GH便りを作成し送付している。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 通院の途中住んでいた家の近くの道を通って行くと、いろいろな在宅での生活ぶりを聞くことができる。地域の行事に参加すると、懐かしい顔に会うことができる。	
			(外部評価) 法人の広場に牛鬼が来てくれた時には、牛鬼に手を合わしたり、ご自分が持っているお金でご祝儀を渡された方もいる。いただいた紙垂は、神棚に供えておられた。100歳を迎えた利用者のお祝い時は、ご家族の方達にお知らせすると、県外からご家族が集まれ、一緒にお祝いされた。利用者は、息子さんが用意された背広にネクタイを締めて、皆の前であいさつをされたようだ。職員が用事で、利用者の懐かしい場所に行くような際には、利用者もお誘いして一緒に出かけることもある。事業所から併設の老健に移動された方に会いに行かれたり、行事時に会うと、利用者同士で「あーりやー」と声をかけ合う様子も見られるようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者さん同士が会話を楽しめるような場を作っている。中にはどうしても上手くいかない人も居る為、トラブルにならないように、職員が早めの対応をしている。	
22		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 家族さんとはの関係を大切にしていると、亡くなられても連絡を取り合ったり、「懐かしい」といって尋ねてくださる。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人さんのお話を傾聴することで、思っていること、本人さんの好み等を知り、職員で周知している。 (外部評価) 介護計画作成前には、アセスメントを取り直し、利用者の訴えや身体状態、できることできないこと等についての情報収集に取り組み、計画に反映されている。学習療法を継続して行っておられ、調査訪問時も午後に計算等を行っている様子がみられた。昔の暮らし等のお話から、切干大根や漬けもの作り等につなげ支援することもある。若年の方は、犬がお好きなことがわかり、犬の散歩を通じて、じょじょに職員と信頼関係を作り、気持ち等を知ることができるようになっている。食後には、コーヒータイムを持ち、ゆっくりおしゃべりして過ごす時間を作っておられ、職員は、利用者個々の好みに合わせてコーヒーを準備されていた。	利用者の中には、あまりお話をしないような利用者や思いを知ることに難しさがあるような方もおられるようだ。利用者が今後、ご自分で意向を表わすことが難しい状態になっても、利用者個々がその人らしい暮らしを続けられるよう、思いや意向を把握できるようなアセスメントにさらに工夫を重ねていきたい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 毎日の生活の中で、本人さんの記憶に残っている生活に触れることが出来る。そしてその中で本人さんの思いを知ることが出来る。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 本人さんには、今出来ることを忘れないようにしていただくように支援している。(出来ることを取り上げないように)	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	(自己評価)	
			<p>本人、家族さんと担当職員、計画作成担当者と話し合ったり、電話で聞き取りして、より良い生活の提供に心がけている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>介護計画は、毎日、×でモニタリングを行い、毎月評価して半年ごとの見直しにつなげておられる。又、排泄・歩行等、日常生活動作のレベルをグラフにして、ケアのポイントを把握しやすいようにされている。ご家族の来訪時に担当者会議を行ったり、遠方に住むご家族には電話で暮らしやケアへの要望を聞き取り、計画に反映されている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	(自己評価)	
			<p>毎日の経過記録、ケアプラン実施チェック表、月ごとのケアプラン評価表、アセスメント等を参考にしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>いつでも本人、家族さんの必要に応じた情報を提供し、要望に沿えるように努めている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	(自己評価)	
			<p>地域との関係を絶たないように、情報を得ながら地域に出かけて行き、歩み寄りながら、良い関係を作り込みに心がけている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 今年から、かかりつけ医に往診をしてもらえるようになって、施設内の状況も知ってもらえるようになって連携が取りやすくなった。病状についても、必要なときは家族に詳しく説明してくれ、進んで専門医に紹介してもらえるので安心して居る。	
			(外部評価) 昨年からは主治医が往診して下さるようになり、いつでも相談できるようになったことで、利用者やご家族の安心につながっている。床ずれができたような場合には、訪問看護ステーションから看護師が朝晩来て、処置をしてくれた。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護師は毎日様子を見に来てくれて、個人の経過記録に眼を通して、必要な指示を得ている。緊急時は、老健の看護師にも相談できるようになっているので安心できる。夜間の緊急時等は応援も期待できる。	
			(外部評価) 病院側には必要な情報を提供し、協力している。家族が遠い人は、必要な物品も準備し困らないようにしている。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 本人家族さんの希望に応じて、看取りをするようになって、主治医も気持ちよく相談に乗ってくださるようになった。家族さんも安心して、協力して下さる。又看取りをすることで職員も成長できたと思う。	
			(外部評価) 職員は、看取り支援を経験され、改めて口から食べることの大切さを感じておられた。かかりつけ医や法人、ご家族とも「好みに食べさせてあげたい」という方針が一致しており、食欲が低下した時には、利用者の状態に応じて、好きなものを食べてもらえるよう支援されて、状態が改善されたような方も複数おられる。管理者が、県外の他事業所を見学に行かれ、習って来られたパン粥等も採り入れ支援された。管理者は、職員に「看取りは怖いことではなく、自然のこと」ということを繰り返し伝え、職員も看取りの経験を通し、受け入れておられる。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人家族さんの希望に応じて、看取りをするようになって、主治医も気持ちよく相談に乗ってくださるようになった。家族さんも安心して、協力して下さる。又看取りをすることで職員も成長できたと思う。	
			(外部評価) 職員は、看取り支援を経験され、改めて口から食べることの大切さを感じておられた。かかりつけ医や法人、ご家族とも「好みに食べさせてあげたい」という方針が一致しており、食欲が低下した時には、利用者の状態に応じて、好きなものを食べてもらえるよう支援されて、状態が改善されたような方も複数おられる。管理者が、県外の他事業所を見学に行かれ、習って来られたパン粥等も採り入れ支援された。管理者は、職員に「看取りは怖いことではなく、自然のこと」ということを繰り返し伝え、職員も看取りの経験を通し、受け入れておられる。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 施設内研修等で勉強する機会がある。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 法人内で年2回、避難訓練を実施しているが、その際グループホーム独自の訓練を取り入れている。又年に一度、東北大震災にあわせて行われる地域での訓練には、サイレント同時にグループホーム独自で行っている。 (外部評価) 年2回、法人とともに、夜間の火災を想定した避難訓練を行っておられ、法人施設と役割を分担されている。3月11日には、地域にサイレンが鳴り、事業所では、サイレンに合わせて独自に避難訓練が行われた。その際、利用者が机の下にもぐる事が難しいということも分かったようだ。事業所では、タオルを複数枚重ねて利用者で作った防災頭巾や、避難用品をリュックに詰め用意されている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員一人一人が勉強して利用者に関わることで、同じ対応が出来ている。排泄介助等には小さく声かけしたり、尿取りパット等は人目につかないように配慮をしている (外部評価) 利用者のお誕生日の日には、花束等をプレゼントされている。日々の中では、他利用者の体調を気にかけて、「寒いやろ」と毛布を肩にかけてあげる等、利用者同士で寄り合うような場面も多く見られるようだ。若年の方は特に、人前でご自分の行うことを注意されたり、批判されることがないよう、職員がさりげなくサポートしたり、カバーされている。ご本人が「私は治らんのやけん」と悲観される時には、ご自分でできるようになったようなことを伝え、自信を持ってもらえるよう支援されている。ぬいぐるみがお好きな方は、犬や大きな熊のぬいぐるみをそばに置いておられ、職員はぬいぐるみのことを話題にしなが、ご本人に話しかけるようにされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人さんがほしい物食べたい食事を聞いてメニューづくりの参考にしている。いきたいところも出来るだけ希望に添うようにしている。お姉さん、弟さんが理、美容師をしている方は面会も兼ねて利用するようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)  お茶の時間には好みの飲み物を聞いて用意している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価)  利用者と一緒に次の日に着る洋服を選んでる。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価)  利用者の好みの味付け、下こしらえ、等を一緒にすること で、食事が楽しくなるように支援している。 食べ終わると食 事の片付けを手伝ってもらい、お礼を言うとうれしそうに「これ くらいは出来るよ」の返事が返ってくる。食後はゆったりとお 茶を楽しむ時間も出来るようになった。	
			(外部評価)  ユニットごとに主食・副菜作りの担当を決めて食事を作って おられる。利用者も一緒に食材の買い出しに行くこともある。 職員は、衛生面に気を付けておられ、調理時には三角巾と エプロンを着けてかかわっておられる。風邪気味の折りに は、咳に良い大根はちみつを作ったり、お腹の調子が良くな い折には、手作りの梅酒を飲んでみることで改善すること もあるようだ。調査訪問時の昼食後に、職員は、小ぶりのみか んをお盆に乗せて利用者個々に「いくつにしますか？」と選 んで取ってもらえるよう回っておられた。食事の献立を書い たホワイトボードを台所に掛けておられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価)  食事量や水分量には充分注意している。職員も食べるこ との大切さが充分理解できていると思う。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価)  食後はお茶飲んでゆっくりした後は、全員で口腔衛生の声 かけ介助に徹底している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 自己負担の軽減の為に、出来るだけオムツを使用しないように、トイレ誘導、時間ごとの声かけの工夫をしている。 (外部評価) トイレで排泄することを強く希望される利用者が多くおられ、事業所では、排泄の自立に向けて力を入れて支援されている。体調が優れない時でもトイレでの排泄を希望される場合は、応じておられる。又、事業所では、歩くことにも力を入れておられ、車いすをできるだけ使用せず、手引やシルバーカーを押して移動する方も複数おられ、トイレを使用しやすいようにトイレ入り口は引き戸で、中の個室トイレの戸はカーテンにされていた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便表の確認をし、主治医と相談したり、水分量、食品等に気をつけている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本的に毎日入浴できるようになっているが高齢もあり、本人さんの状態によって適時に入浴している。入浴剤の使用で、気持ちよく利用されている。 (外部評価) 以前は、老健の機械浴を使用して入浴を支援していた方は、ご本人が手すりを持つ様子がみられ、状態が改善されたことを機に、事業所の浴槽で入浴できるよう支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 眠れない人はココアミルクなどで落ち着く場合がある。必要であれば医師と相談している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬情はすぐに見えるようにしており、把握できる。服薬しても、「吞んでいない」と訴える人も居る為、薬の入った袋は残して、誤投薬を防止している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 広い敷地を利用して、焼肉、運動会等のイベントをしたり、外で食事をして気分転換をしている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 体力的に外出できる人が少なくなったが、季節によっては花見、ドライブ等楽しんでいる。	
			(外部評価) 職員と一緒にゴミ捨てに行かれたり、犬の散歩や庭の散策等、戸外に出ておられる。外出の計画を立て、和霊大祭や花火大会等にも出かけられた。道の駅に行かれる時等にはご家族が現地で待っていてくださることもある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の自己管理が出来る人は少ないが、週2回パン屋、ヤクルトの販売が来て、希望者は自由に選んで買っている。選ぶことの楽しさを味わってほしいと思っている。お金を自分で管理している方は、食事時、好きな物を買って食べる。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話がかかってくると喜んで話されるが、手紙を書く人も少なくなった。希望があれば家族に電話をしている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者さんと一緒に摘んだ季節の花を飾り、それを見て会話も生まれる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>状態が優れず、職員の目が離せない状態にある利用者は、居間にベッドを移動して休んでもらっており、他利用者が「わるいかな」「たべなさいよ」等と言葉をかけてくださったり、又、台所からの音やにおい、さらに人の気配や声等の中で過ごすことで食欲が出て、状態が改善されたようなこともある。掲示板に利用者の写真や年齢を掲示されていたり、新聞の切り抜きを掲示されたり、行事時の写真を飾っておられた。事業所の入り口には、法人の方が手作りしてくださった門松が飾られ、玄関には鏡餅や松・菊等のお正月のお花を飾っておられた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>外にテーブルを置いて、天気の良い日は皆で音楽を聴いたり、レクリエーション、お茶を楽しんでいるが強要はしないようにしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入居時には、家族さんも自由に宿泊できることを説明し、希望者は家族用に自宅の布団もって来られる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>以前利用されていた方が寄付してくださったタンスやベッドを使用させてもらっていたり、ご自宅から持ち込んだりされている。各居室に洗面台が設置されており、食後に歯磨きする様子も見られた。昼間も横になる方は、布団を敷いておられるが、利用者は居間で日中を過ごす方が多く、布団を上げ、換気を行っておられた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>本人さんに来ることをしてもらいながら、出来ない部分を少し手伝い、自信を持って暮らせるように支援をしている。居室、トイレ、浴室も分かりやすいように、工夫をしている。洗濯たため、干すこと等は先にとるように手伝われる。</p>	